

稲作・金属器の伝来と弥生時代

[弥生時代の到来]

紀元前 5 世紀頃？、大陸から漢民族の高度な文化である「」と「」が伝来し、弥生文化が成立した。日本列島に住んでいた人々は、それまでの狩猟・採集に加えて、水稻農耕（稲作）も行う “ 経済 “ 段階へと突入したのである。

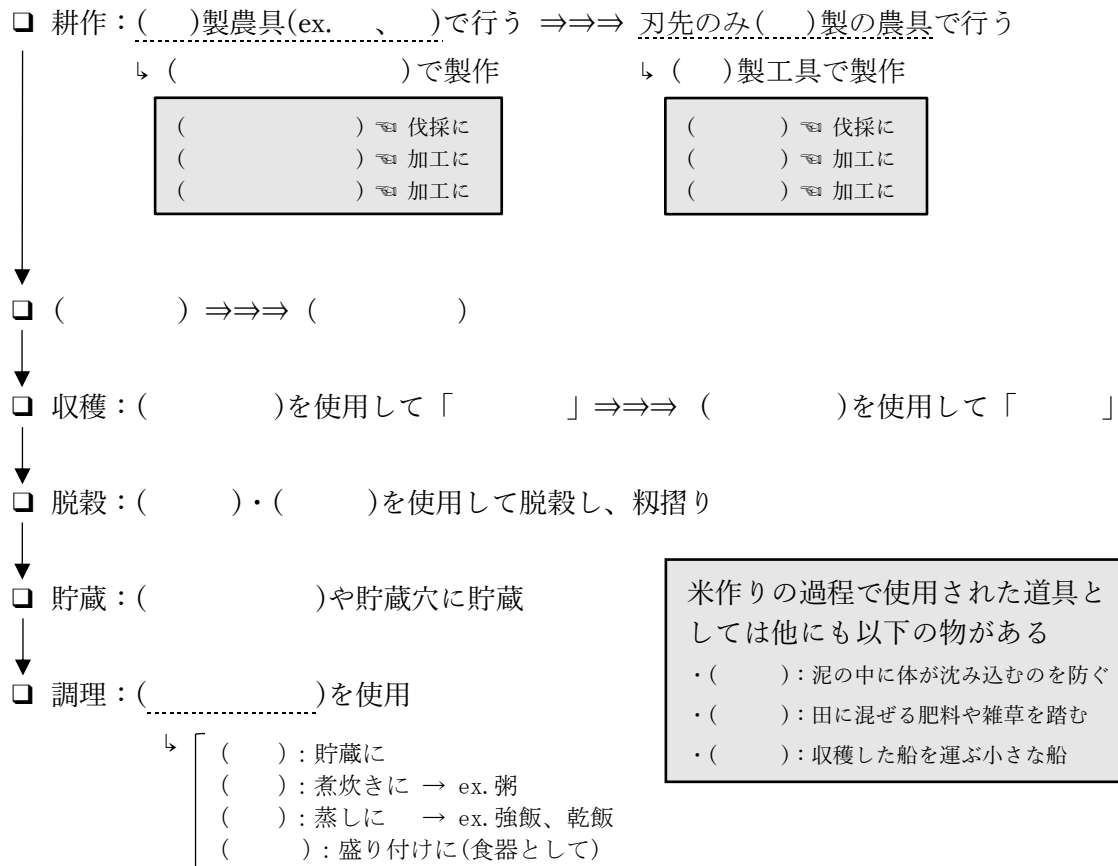
それまで日本列島で生活していた人類（縄文人）は（）と呼ばれる南方アジア系の人類であった。古モンゴロイドは比較的低身長、二重、彫が深い、体毛が濃いなどといった特徴を持つ人類である。古モンゴロイドに対して、この時期に稲作や金属器とともに、北方アジア系の（）とよばれる人類が渡来してきた。新モンゴロイドは、比較的高身長、一重、扁平な顔立ち、体毛が薄いなどといった特徴を持つ人類である。こうして、古くから日本に住んでいた古モンゴロイドと新しく入ってきた新モンゴロイドの混血が繰り返されることで、両方の特徴が混在する現在の日本人が形成されたのであるが、一般的に、日本人は後から入ってきた北方アジア系の特徴を受け継ぐ人が多いとされている。

[稲作の伝来とその変遷]

稲作は中国から朝鮮半島へ、さらにそこから紀元前 5 世紀前後（縄文時代末期）に九州北部に伝来されたとされている。弥生時代前期の終わりごろまでには、本州の最北端青森県まで伝わった。こうして水稻農耕を基礎とする弥生文化が、（）と（）を除く日本全国で成立したのである。また、弥生時代的水稻耕作については、その様式において前期と後期で以下のような変遷を遂げたという点もポイントである。

前期	後期
・低湿地における（ ）が主流 ・（ ）製農具で耕作 ・（ ） ・（ ）を使って「 」	・（ ）技術の進歩により、より生産性の高い（ ）が増加 ・刃先のみ（ ）製の農具が登場 ・（ ） ・（ ）を使って「 」

○米作りの流れ



[金属器の使用]

大陸では、()が発明された後に、より発展的な()が発明されたのであるが、日本列島ではこの2つの金属器がほぼ同時期にもたらされたため、その使用用途に違いが生まれた。金属器も稲作と同様に、朝鮮半島を経て九州北部へと伝来したようだ。

鉄器 → ()や()として使用
青銅器 → ()として使用

- 青銅製祭器 ☞ これを用いて “ ” を行っていた
- ・()：近畿、東海地方を中心に分布
 - ・()：瀬戸内地域を中心に分布
 - ・()&()：北九州地域を中心に分布



[弥生時代の文化]

○人々の生活

- ❑ 狩猟、漁撈、採集のほかに、() を基礎とする生活を営む。
- ❑ () 製祭器を用いた () を実施。
- ❑ 水田近くの低地に「 」の集落を形成して定住。
- ❑ 機織り技術が伝来し、衣服として男性は ()、女性は () を着用。
- ❑ 稲作が開始されたことによる余剰生産物の発生などから、貧富差・身分差が出現し、集落内に支配者である () が出現。階級社会が形成された。
- ❑ 集落間の対立や抗争が発生。 ex. () 集落、() 集落を形成
- ❑ 葬送が変化。 ㊦ 死生観の変化や、貧富・身分に差が生まれたことを示す

共同墓地への“ ”が一般化

- Ex. () 墓：地面に穴を掘って、遺体をそのまま埋葬
() 墓：板状の石を組み合わせ箱状の棺にし、遺体を入れて、埋葬
() 墓：甕の形をした土器を棺とし、遺体を入れて、埋葬
() 墓：甕棺墓などに入れた遺体の埋葬後、地上に平たい巨石を墓石として設置。中国東北部や朝鮮半島南部の影響か
- ☆共同墓地といっても、規模や () などに格差が見られるようになる。

権力を持つ特定個人の墓である「 」が登場

- Ex. () 墓：家族墓に使われたと考えられる
() 墓：山陰地方で発見される。四隅が外側に突出した墳丘墓
() 墓：岡山県に作られた、全長70mを超す大型の墳丘墓
- ☆新墓制の登場は、貧富・身分の差が明確になり、支配者が出現したことを示す

弥生時代の墓制まとめ

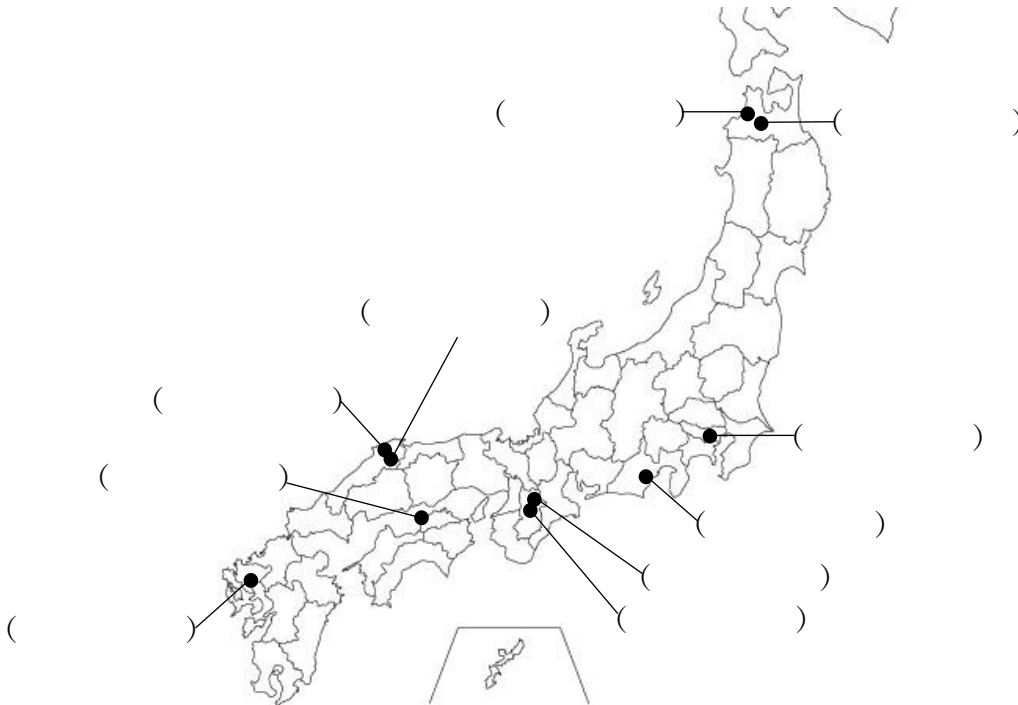
- ↳ ① 墓制や埋葬品には地域ごとに差がある
- ② 共同墓地への () が基本であるが、貧富・身分の差が明確になってきたために、墓の規模や副葬品に格差が生れるようになり、特定個人の墓である () も登場

稲作を行うことが難しかった () などの南西諸島や () には弥生文化は訪れず、前者では“ ”文化“が、後者では“ ”文化“という独自の文化が育まれた。



○縄文時代の遺跡

- ・ () in () 県 ㊦ 日本最北端の水田跡（弥生時代前期）が見つかる。
- ・ () in () 県 ㊦ 東北地方における弥生時代稲作が最初に確認された遺跡
- ・ () in () ㊦ 「弥生土器」「弥生時代」の名称はこの地にちなむ
- ・ () in () 県 ㊦ 巨大な水田跡や集落跡が見つかった大規模な遺跡
- ・ () in () 県 ㊦ 戦前に発掘された、4重の濠から成る環濠集落跡の発見された弥生時代における日本最大級の遺跡
- ・ () in () 県 ㊦ () の墓かもとされる() 古墳のある遺跡
- ・ () in () 県 ㊦ 銅剣 358 本、銅鐸 6 点、銅矛 16 本が発見された
- ・ () in () 県 ㊦ 史上最多の銅鐸 39 点が一度に見つかる
- ・ () in () 県 ㊦ 海拔 352m の山頂にある高地性集落の遺跡
- ・ () in () 県 ㊦ 墳丘墓や巨大な環濠集落が発見された、大規模遺跡



[解答例]

当初、弥生時代の水田は湿田であり、耕作では木製農具が使われ、石包丁による穂首刈で収穫が行われた。後期には鉄器の普及から刃先のみ鉄製の農具が登場し、鉄鎌による根刈りで収穫が行われ、灌漑施設を整えた乾田も営まれるようになり、生産力が向上した。

(119 文字)



問. 弥生時代を通して、水稻農耕（稲作）にはどのような変化がもたらされたか。そこで使用された道具についても触れながら、120 文字以内で述べよ。



稲作・金属器の伝来と弥生時代

[弥生時代の到来]

紀元前 5 世紀頃？、大陸から漢民族の高度な文化である「**水稻農耕(稲作)**」と「**金属器**」が伝来し、弥生文化が成立した。日本列島に住んでいた人々は、それまでの狩猟・採集に加えて、水稻農耕（稲作）も行う “**生産 経済**” 段階へと突入したのである。

それまで日本列島で生活していた人類(縄文人)は（**古モンゴロイド**）と呼ばれる南方アジア系の人類であった。古モンゴロイドは比較的低身長、二重、彫が深い、体毛が濃いなどといった特徴を持つ人類である。古モンゴロイドに対して、この時期に稲作や金属器とともに、北方アジア系である（**新モンゴロイド**）とよばれる人類が渡来してきた。新モンゴロイドは、比較的高身長、一重、扁平な顔立ち、体毛が薄いなどといった特徴を持つ人類である。こうして、古くから日本に住んでいた古モンゴロイドと新しく入ってきた新モンゴロイドの混血が繰り返されることで、両方の特徴が混在する現在の日本人が形成されたのであるが、一般的に、日本人は後から入ってきた北方アジア系の特徴を受け継ぐ人が多いとされている。

[稲作の伝来とその変遷]

稲作は中国から朝鮮半島へ、さらにそこから紀元前 5 世紀前後（縄文時代末期）に九州北部に伝来されたとされている。弥生時代前期の終わりごろまでには、本州の最北端青森県まで伝わった。こうして水稻農耕を基礎とする弥生文化が、（**沖縄**）と（**北海道**）を除く日本全国で成立したのである。また、弥生時代的水稻耕作については、その様式において前期と後期で以下のような変遷を遂げたという点もポイントである。

前期	後期
・低湿地における（湿田）が主流 ・（木）製農具で耕作 ・（直播き） ・（石包丁）を使って「穂首刈」	・（灌漑）技術の進歩により、より生産性の高い（乾田）が増加 ・刃先のみ（鉄）製の農具が登場 ・（田植え） ・（鉄鎌）を使って「根刈り」

○米作りの流れ

□ 耕作：(木)製農具(ex. 鋤、鍬)で行う ⇒⇒⇒ 刃先のみ(鉄)製の農具で行う

↳ (大陸系磨製石器)で製作

(太型蛤刃石斧) ⇨ 伐採に
(柱状片刃石斧) ⇨ 加工に
(扁平片刃石斧) ⇨ 加工に

↳ (鉄)製工具で製作

(鉄斧) ⇨ 伐採に
(鉋) ⇨ 加工に
(刀子) ⇨ 加工に

□ (直播き) ⇒⇒⇒ (田植え)

□ 収穫：(石包丁)を使用して「穂首刈」⇒⇒⇒ (鉄鎌)を使用して「根刈り」

□ 脱穀：(木臼)・(竪杵)を使用して脱穀し、粃摺り

□ 貯蔵：(高床倉庫)や貯蔵穴に貯蔵

□ 調理：(弥生土器)を使用

↳ (壺)：貯蔵に
(甕)：煮炊きに → ex. 粥
(甗)：蒸しに → ex. 強飯、乾飯
(高坏)：盛り付けに(食器として)

米作りの過程で使用された道具としては他にも以下の物がある

- ・(田下駄)：泥の中に体が沈み込むのを防ぐ
- ・(大足)：田に混ざる肥料や雑草を踏む
- ・(田舟)：収穫した稲を運ぶ小さな船

[金属器の使用]

大陸では、(青銅器)が発明された後に、より発展的な(鉄器)が発明されたのであるが、日本列島ではこの2つの金属器がほぼ同時期にもたらされたため、その使用用途に違いが生まれた。金属器も稲作と同様に、朝鮮半島を経て九州北部へと伝来したようだ。

鉄器 → (武器) や (農具) として使用
青銅器 → (祭器) として使用

□ 青銅製祭器 ⇨ これを用いて“ 農耕儀礼 ”を行っていた

- ・(銅鐸)：近畿、東海地方を中心に分布
- ・(平形銅剣)：瀬戸内地域を中心に分布
- ・(銅矛)&(銅戈)：北九州地域を中心に分布



[弥生時代の文化]

○人々の生活

- ❑ 狩猟、漁撈、採集のほかに、(水稻農耕(稲作)) を基礎とする生活を営む。
- ❑ (青銅) 製祭器を用いた (農耕儀礼) を実施。
- ❑ 水田近くの低地に「 竪穴住居 」の集落を形成して定住。
- ❑ 機織り技術が伝来し、衣服として男性は (袈裟衣)、女性は (貫頭衣) を着用
- ❑ 稲作が開始されたことによる余剰生産物の発生などから、貧富差・身分差が出現し、集落内に支配者である (首長) が出現。階級社会が形成された。
- ❑ 集落間の対立や抗争が発生。 ex. (環濠) 集落、(高地性) 集落を形成
- ❑ 葬送が変化。 ㊦ 死生観の変化や、貧富・身分に差が生まれたことを示す

共同墓地への“ 伸展葬 ”が一般化

- Ex. (土壙) 墓：地面に穴を掘って、遺体をそのまま埋葬
(箱式石棺) 墓：板状の石を組み合わせ箱状の棺にし、遺体を入れて、埋葬
(甕棺) 墓：甕の形をした土器を棺とし、遺体を入れて、埋葬
(支石) 墓：甕棺墓などに入れた遺体の埋葬後、地上に平たい巨石を墓石として設置。中国東北部や朝鮮半島南部の影響か
☆共同墓地といっても、規模や (副葬品) などに格差が見られるようになる。

権力を持つ特定個人の墓である「 墳丘墓 」が登場

- Ex. (方形周溝) 墓：家族墓に使われたと考えられる
(四隅突出型墳丘) 墓：山陰地方で発見された、隅が外側に突出した墳丘墓
(楯築墳丘墓) 墓：岡山県に作られた、全長70mを越す大型の墳丘墓
☆新墓制の登場は、貧富・身分の差が明確になり、支配者が出現したことを示す。

弥生時代の墓制まとめ

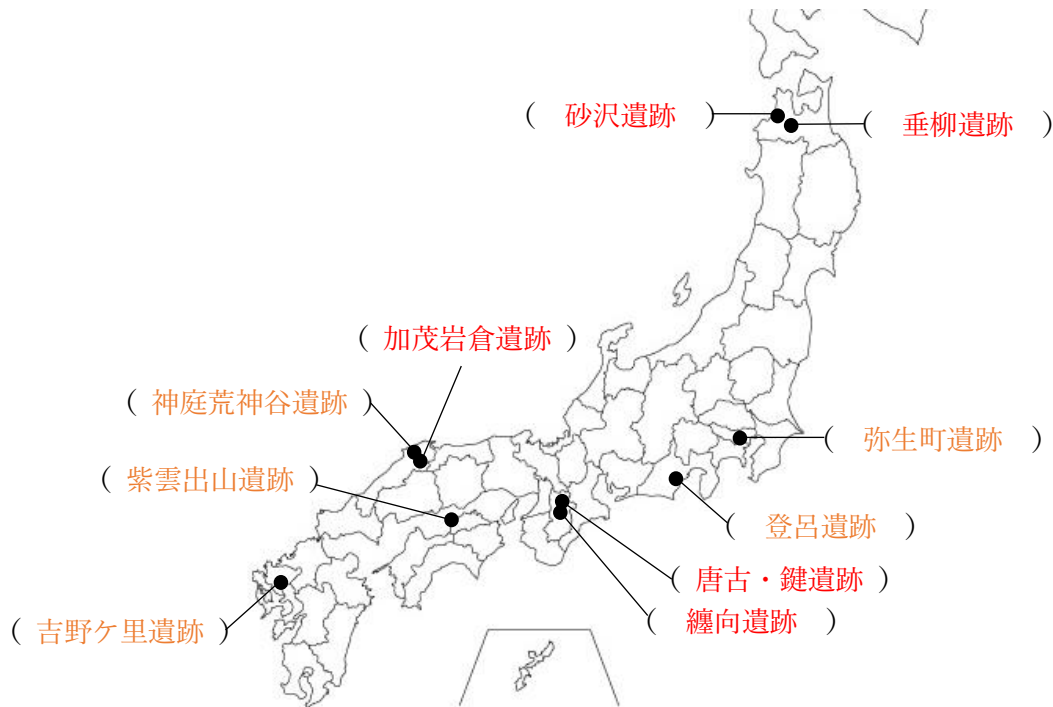
- ↳ ① 墓制や埋葬品には地域ごとに差がある
- ② 共同墓地への (伸展葬) が基本であるが、貧富・身分の差が明確になってきたために、墓の規模や副葬品に格差が生れるようになり、特定個人の墓である (墳丘墓) も登場

稲作を行うことが難しかった (沖縄) などの南西諸島や (北海道) には弥生文化は訪れず、前者では“ 貝塚文化 ”が、後者では“ 続縄文文化 ”という独自の文化が育まれた。



○縄文時代の遺跡

- ・ (砂沢遺跡) in (青森) 県 ㊦ 日本最北端の水田跡 (弥生時代前期) が見つかる。
- ・ (垂柳遺跡) in (青森) 県 ㊦ 東北地方における弥生時代稲作が最初に確認された遺跡
- ・ (弥生町遺跡) in (東京都) ㊦ 「弥生土器」「弥生時代」の名称はこの地にちなむ
- ・ (登呂遺跡) in (静岡) 県 ㊦ 巨大な水田跡や集落跡が見つかった大規模な遺跡
- ・ (唐古・鍵遺跡) in (奈良) 県 ㊦ 戦前に発掘された、4重の濠から成る環濠集落跡の発見された弥生時代における日本最大級の遺跡
- ・ (纏(纏)向遺跡) in (奈良) 県 ㊦ (卑弥呼) の墓かもとされる (箸墓) 古墳のある遺跡
- ・ (神庭荒神谷遺跡) in (島根) 県 ㊦ 銅剣 358 本、銅鐸 6 点、銅矛 16 本が発見された
- ・ (加茂岩倉遺跡) in (島根) 県 ㊦ 史上最多の銅鐸 39 点が一度に見つかる
- ・ (紫雲出山遺跡) in (香川) 県 ㊦ 海拔 352m の山頂にある高地性集落の遺跡
- ・ (吉野ヶ里遺跡) in (佐賀) 県 ㊦ 墳丘墓や巨大な環濠集落が発見された、大規模遺跡



[解答例]

当初、弥生時代の水田は湿田であり、耕作では木製農具が使われ、石包丁による穂首刈で収穫が行われた。後期には鉄器の普及から刃先のみ鉄製の農具が登場し、鉄鎌による根刈りで収穫が行われ、灌漑施設を整えた乾田も営まれるようになり、生産力が向上した。

(119 文字)



問. 弥生時代を通して、水稻農耕（稲作）にはどのような変化がもたらされたか。そこで使用された道具についても触れながら、120 文字以内で述べよ。

